

2015 年 月 日

プロジェクト報告書

団体名 一般社団法人
市民の学習・活動・交流センター シビル

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

2014年度シビル歴史散歩

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

原発事故、オリンピック招致などの問題を通じて、東京への一極集中を問い直す声も上がっている。東京がどのように形成されてきたかを多摩の視点から知りたい。武蔵野台地に引かれた玉川上水は、江戸の水を供給するだけでなく、多くの分水によって各地の水を繋ぎ合わせた。最近に建てる大学の跡を訪ね、現地に

3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

- ① 7月13日「玉川上水を歩く」羽村取水堰から途中電車で玉川上水駅近くの小平を視察する。その縁側から分水・築港分水などを昭和記念公園まで。
- ② 10月26日「小川用水を歩く」小川九郎兵衛が作った小川用水を利用して小川村ができた。小平になった。最後小平になるまで村で地粉を作った糰(か)うどんを食べた。
- ③ 4月4日「春の妖精カケリを見る」花の時期にあわせようとして日程をずらして見に行った。新田村の親村がある谷戸を見学。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

コースを作るにあたっては、どこで昼食にするかが一番悩む。下見する時は、店に入らないうちに入らないうちの適当な店があるか、弁当持参なら座る場所があるか、を考へる。7月は福生駅周辺で分散して店に入り、10月は小平になるまで村で地粉の糰(か)うどんを食べた。カケリを見に行った時は公園で弁当を食べたが寒かった。昼食は歴史散歩の楽しみの一つであるが、弁当より外食にせよ、あまり負担のないようにとも考へる。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

武蔵野台地開発の前提条件であった玉川上水がそこから分水を引いて生まれた新田村、この親村がある谷戸、を3回回って歩いた。よい企画だと思ふ。今後は、さらに江戸との関係と物や人の東西の動き、あるいは狭や横溝方面とのつながりなどに目を向けたいと、現在の一般的な東京の姿とは別のものが見えてくるだろう。これから継続していく歴史散歩のテーマである。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

シビル市民講座⑩

歴史散歩—玉川上水を歩く

多摩川の水はどうやって崖をはいあがり、武蔵野台地に上るのか……!?

7月13日(日)

集合 JR青梅線羽村駅改札口10時

(歩きやすい靴と服装で) 解散 JR立川駅3時ごろ (変更の可能性あり)

参加費：1000円 (シビル会員は800円)

案内人：福田 恵一さん (中学校社会科教員)

(案内人からの一言) 玉川上水のすばらしさを自分の足で

江戸時代初期、大きくなった江戸の飲み水を確保するために、玉川上水がひかれたことはよく知られています。そして、その水が武蔵野台地の開発に役だったことも有名です。

でも、川の水を台地に引くことはそう簡単なことではありません。何しろ水は1cmたりとも低いところから高いところには流れません。川はその地域で一番低いところを流れているのですから、川より一段高い台地上に、その水は上れないのです。

ところが玉川上水は、崖をはい上がるように引かれ、みごとな技術で(?)、多摩川の水を1段、イヤ、羽村の堰からは2、3段も高い武蔵野台地に上らせてしまうのです。

そんなばかなことが!でも、羽村の堰で多摩川から引かれた玉川上水は、ちゃんと三鷹駅の下を通っているではありませんか。三鷹駅は武蔵野台地のほぼ頂上です。

玉川上水がどうやって崖をはいあがり、台地上に上るのか……!?!それを考え、自分の足で歩き、目で確かめて、体感しよう、というのが今回のシビル講座「玉川上水を歩く」です。

ついでに、玉川上水の分水はどうやって引かれ何に使われたのかも見てみたいと思っています。(2014.7.13)

お問い合わせ/お申し込みは
一般社団法人シビル
042-524-9014
(担当 こうの)
立川市柴崎町3-10-4
civiltachikawa@yahoo.co.jp

歴史散歩—玉川上水を歩く 申し込み書

(2014.7.13)

氏名

住所

連絡先(電話・ファックス・Eメール)

(一般・会員) ○をつけてください。

領収証

様

¥

歴史散歩—玉川上水を歩く
(2014.7.13)参加費として

月 日 扱い

7月シビル歴史散歩玉川上水を歩く

13日(日)、シビルの歴史散歩でまた玉川上水を歩いてきました。毎年3回やっているアイム相乗りの歴史散歩の第一回目。まあだいたい私が案内人で、玉川上水とその周辺を歩くことが多いのですが、今回は久々に王道の羽村取水堰～田村分水のコースです。

玉川上水自体が人気がある上、今回は朝日新聞折り込みの「アサココ」にも取り上げられたとのことで高校生を含め30名近い参加がありました(高校生は、シビルが関係する塾での関係)。アイムからも加藤、中野さんがかけつけてくれて、ほとんどスタッフとしてサポートをしてくれました。また、ここで加入した立川新生小の市丸さんも同僚と共に参加してくれました。

まいまいすの井戸で台地上の水の得にくさを確認したあと、段丘面を確認しながら堰まで下りてゆきます。禅林寺前の寺坂で一段、そこから羽村橋にまた一段と、おおよそ2段を下りると玉川上水が見えてきます。

取水堰で、投渡し堰や洗い堰(今はコンクリートでの固定堰)の洪水に逆らわない柔構造を確認した後、第三水門まで歩きます。ここでまた堰き止められた水は、大正ロマンの面影を遺すトンネル入口から地下水管で多摩湖に送られています(東京水道)。しばらく行くと堂橋です。ここで自分の立っている位置と上水の水面の高さの差を見ておきます。おおよそ4mくらいでしょうか?やや歩くと、上水は最初の段丘面にとりつきます。つまり上水ワキを歩く私たちは、段丘面を一段登るわけです。「さあ、私たちは坂を登りますよ。上水は…?」登りきったところが新堀橋。当然ながら水は崖を登れませんから、ここでは私たちが登った分、上水は段丘面を深く掘りています。新堀橋から見る上水は、はるか下に見えます。そこから福生加美上水公園を掘替え跡など見ながらいくと15分ほどで、宮本橋に出ます。するとふしぎ、玉川上水はちゃんと堂橋と同じくらいの高差に迫ってきます。私たちはその後崖を下っていませんから、上水が崖を登ったのか?もちろん、これは私たちが段丘上の台地を緩やかに下っているのに合わせ、上水を掘る角度をわずかにゆるめて、段丘上に水を引き込んでいるのです。これは、何回みてもすごい。

ここで、田村酒造に引き込まれる最初の分水、田村分水(これは酒造のための精米水車の動力としての利用が第一)を見て、午前中はおしまい。

昼食後、拝島駅に集まって、上水が初めて北側に出ず殿が谷分水(これはすでに放棄)の取水口跡と、今も生きている拝島分水取水口を見て、今回は西武線で西武立川に出ます。そこから、立川本村に向かう柴崎分水をたどりました。何があるわけではないのですが、けっこう水が流れていて、途中子どもたちが水遊びなどしていると、環境保全水としての利用はこれで十分と思ってしまう。途中、まだ私もよくわかっていない堰と滝(たぶん水車跡)を見て、柴崎分水が暗渠になり、その上が遊歩道となって昭和記念公園(もと立川基地)のフェンスに消えるところで、きょうの散歩はおしまいです。